

奉賀

飛踏之連歌

賦 千歳

素心

松や千々房隈とわき春の春  
初日ゆきくに年松ふ鶴  
鏡映あきけき代の恵こふ  
續く形端乃戸をさぬ  
空をたむかしく月北燈屋  
吟よ季承れはる秋

早稲晩稲今年ハ穡ハ海陸  
末の娘をさるれば海陸  
其むし守。校のたのしみ  
風あゝくに美歌 津社  
砂門以流々水は藝か  
白の〜布は清

高〜と秋水の月北歌を  
若婦む麻乃〜きき  
歌よ詠々待におも〜栗の版  
采れ賀を〜いとまごの  
立並ふ木乃花藝  
一毎り芽の伸る草

軽日長馬ふはら松ふ歌  
若さや春ふたひつて花  
ゆ〜〜〜の巖の  
江津 運りさ〜〜神  
登れを〜〜〜鈕  
海塔竹〜〜  
春〜白〜軍〜木〜年  
日暮〜〜〜  
友む〜〜〜  
此木〜〜〜  
心〜〜〜  
長〜〜〜  
廿夫〜〜〜  
秋心〜〜〜  
亮〜〜〜  
加〜〜〜  
探〜〜〜  
手〜〜〜

